

世界遺産学学位プログラム（博士後期課程）  
 Doctoral Program in Heritage Studies

授与する学位の名称	博士(世界遺産学) [Doctor of Philosophy in Heritage Studies]	
人材養成目的	世界の文化遺産・自然遺産の社会的・国際的役割を、地球環境と人間社会の持続可能性の達成を目的とする国際社会のアジェンダ、国際ガバナンスとの関係のもとに総合的に理解し、遺産が直面する問題の所在を政治・経済・社会・自然的要因に関連付けて分析し、その解決のための理論・技術を研究する高い能力を有する世界遺産学の研究者・大学教員、世界のトップリーダーとなる高度専門職業人を育成する。	
養成する人材像	世界の文化遺産・自然遺産の保護において、世界に貢献するという明確な意思及び態度、倫理観、国際社会、特に国際機関における議論の場で通用するコミュニケーション能力・交渉力、国際社会におけるニーズを的確に把握して課題を解決する能力、世界の文化遺産・自然遺産を次世代に伝えていくことができる世界遺産学の研究者・教育者としての能力を持った人材を育成する。	
修了後の進路	大学等教育機関の教員、研究者及び国や地方公共団体の職員、研究員等。文化遺産保護・国際協力分野の公的機関やコンサルタント関連企業等の職員、研究員 ほか。	
ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・能力	評価の観点	対応する主な学修
1. 知の創成力: 未来の社会に貢献し得る新たな知を創成する能力	① 新たな知の創成といえる研究成果等があるか ② 人類社会の未来に資する知を創成することが期待できるか	世界遺産学特別研究、インターンシップ、学会発表など
2. マネジメント能力: 俯瞰的な視野から課題を発見し解決のための方策を計画し実行する能力	① 重要な課題に対して長期的な計画を立て、的確に実行することができるか ② 専門分野以外においても課題を発見し、俯瞰的な視野から解決する能力はあるか	世界遺産学特別研究、インターンシップ、学会発表など
3. コミュニケーション能力: 学術的成果の本質を積極的かつ分かりやすく伝える能力	① 異分野の研究者や研究者以外の人に対して、研究内容や専門知識の本質を分かりやすく論理的に説明することができるか ② 専門分野の研究者等に自分の研究成果を積極的に伝えるときともに、質問に的確に答えることができるか	世界遺産学特別研究、インターンシップ、学会発表など
4. リーダーシップ力: リーダーシップを発揮して目的を達成する能力	① 魅力的かつ説得力のある目標を設定することができるか ② 目標を実現するための体制を構築し、リーダーとして目的を達成する能力があるか	世界遺産学特別研究、インターンシップ、学会発表など
5. 国際性: 国際的に活動し国際社会に貢献する高い意識と意欲	① 国際社会への貢献や国際的な活動に対する高い意識と意欲があるか ② 国際的な情報収集や行動に十分な語学力を有するか	世界遺産学特別研究、国際インターンシップ、海外留学、海外学会発表など
6. 共通知の展開力: 文化・自然遺産保護に共通する知識を社会に役立てる能力	文化・自然遺産の保全に関する幅広い研究成果を展開し、社会に役立てようとしているか。	世界遺産学特別研究、インターンシップ、学会発表など
7. 専門知の創造力: 文化・自然遺産に関する高度な知識を創造し活用する能力	文化・自然遺産の保全に関する専門的研究の成果を社会に役立てようとしているか。	世界遺産学特別研究、インターンシップ、学会発表など
8. 共通技能の展開力: 文化・自然遺産保護に共通する課題の解決に対応する能力	文化・自然遺産の保全のため、研究成果を展開し、問題解決に取り組むことができるか。	世界遺産学特別研究、インターンシップ、学会発表など
9. 専門技能の開発力: 文化・自然遺産保護の専門的課題の解決方法を見出す能力	文化・自然遺産の保全のため、専門的な解決方法を開発し、問題解決に取り組むことができるか。	世界遺産学特別研究、インターンシップ、学会発表など
10. 国際的開発力: 文化・自然遺産の保護の国際的課題に取り組む意識と意欲	文化・自然遺産の保全のため、国際社会に貢献する高い意欲と十分な語学力を身につけたか。	世界遺産学特別研究、国際インターンシップ、海外留学、海外学会発表など

学位論文に係る評価の基準	
(博士論文審査)	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 予備審査委員会は、主査1名、副査3名以上、計4名以上の委員で構成し、主査は世界遺産学学位プログラムの専任教員とする。予備審査委員会は、提出論文ごとに1回以上開催し、委員全員が一致して、12ヶ月以内に申請者による学位論文の提出が可能であると判断した場合に「可」、その他の場合に「否」と判定する。</li> <li>2. 論文審査委員会は、主査1名、副査3名以上、計4名以上の委員で構成し、主査は世界遺産学学位プログラムの専任教員とする。論文審査委員会は、提出論文ごとに1回以上開催し、学位論文の審査を公開で実施し、可否の判定を行う。公開審査の公表から実施までには原則として1週間以上の周知期間をおくものとする。</li> <li>3. 論文審査委員会主査は、論文博士審査委員会の判定終了後、その結果を、速やかに世界遺産学学位プログラム教育会議に報告し、学位プログラムリーダーを通じて人間総合科学学術院運営委員会に報告する。</li> </ol>	
(評価基準)	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 世界遺産学の博士論文として適切なテーマが設定されていること（問題意識・課題設定）</li> <li>2. 先行研究を踏まえた論文の位置づけが明確であること（研究の位置づけ）</li> <li>3. 課題にふさわしい研究方法が選択されその論拠が信頼できるものであること（研究方法、論拠の信頼性）</li> <li>4. 論旨展開が十分で、全体に大きな矛盾がないこと（論文の構成）</li> <li>5. 研究の実施および結果の公開において倫理的な問題がないこと（倫理）</li> </ol>	
(評価項目)	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 独創性：導入した概念や方法、発見した事実や法則のいずれかが新規であること。既知の方法の改良、異なる分野からの応用等を含むこと。</li> <li>2. 萌芽性：研究の着手段階であるが、新規な発想、着想に基づく研究で今後の発展の可能性の大きなものであること。</li> <li>3. 発展性：従来の定説を変え得る新事実の解明、あるいは新しい研究領域や研究体系・技術体系の開拓等の契機と成り得るものであること。</li> <li>4. 有用性：技術の向上、あるいは実用上、学術上に価値のある有用な情報を提供するものであること。</li> </ol>	
カリキュラム・ポリシー	
世界遺産の保護に関する社会的・国際的ニーズに応えるため、遺産保護に関する高度な研究を行う研究者、国内外の遺産保護の現場、国際機関等で高度の学識と専門的能力をもって遺産保護に従事するプログラムオフィサーを育成するため、実践的かつ学際的な学修課程を編成する。	
教育課程の編成方針	遺産保護に関する高度な研究を行う研究者、国内外の遺産保護の現場、国際機関等で高度の学識と専門的能力をもって遺産保護に従事するプログラムオフィサーを育成することを目的に、「文化遺産政策・行政」、「自然遺産・自然保護」、「遺産整備」、「観光計画」、「景観計画」、「建築遺産」、「美術遺産」、「保存科学」、「国際遺産学」の9つの領域からなる教育課程を編成する。
学修の方法・プロセス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学年次において、専門領域の特別研究に参加し、指導教員の指導を受ける。</li> <li>・2年次秋学期において、全教員の前で博士論文の中間発表を行い、研究に対する助言を受ける。</li> <li>・3年次において、予備審査を経た上で、博士論文を提出し、主査1名、副査3名以上で構成される論文審査委員会により博士学位論文の審査を行う。</li> </ul>
学修成果の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年次、専門領域の特別研究において、博士論文研究計画を発表する。</li> <li>・2年次秋学期において、全教員の前で博士論文の中間発表を行い、審査を受ける。</li> <li>・3年次において、予備審査を経た上で、博士論文を提出し、主査1名、副査3名以上で構成される論文審査委員会により博士学位論文の審査を受ける。</li> </ul>
アドミッション・ポリシー	
求める人材	世界遺産の評価、保存、管理と活用に広い視野と柔軟な思考をもって取り組む意欲を持ち、研究活動に適した学力と資質を備えた学生を求める。
入学者選抜方針	入学試験は、口頭試問によって行い、専門に関わる研究能力とプレゼンテーション能力を重視して、選抜を行う。